

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902660		
法人名	有限会社 こばやしさんち		
事業所名	グループホーム こばやしさんち		
所在地	旭川市東光16条6丁目2番19号 (電話) 0166-33-4852		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】 (21年 2月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 6人 非常勤 3人 常勤換算	4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円 ~ 40,000円		水道光熱他	21,000円
			暖房費(10~5月)	6,000円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (2月 2日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	84歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北彩都病院、 鈴木歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用定員が6名と小規模なグループホームですが、職員が利用者と向き合う時間も長く、ケアも濃密に行なわれているなど理想的なホームと言えます。運営者が望む家庭的なホーム作りが、玄関の格子戸や卓袱台を思わせる食卓で皆の顔が見える食事風景など、随所に見ることができます。また、運営者と管理者が看護師の資格を有して、利用者へのきめ細やかな支援が行なわれ、ターミナルケアへの支援も十分な配慮の下、実践されており家族の安心と信頼をいただいています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題は7項目ですが、運営者を中心とした職員全員の懸命な取り組みが行なわれて、4項目が改善され、また、2項目については改善に向けて進行中です。特に家族への報告に関しては毎月の「おたより」の発行で、家族との絆が一層強固なものになっています。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価作成に当たっては、前年の課題解消のため、職員全員が自らのサービスの振り返りを基礎として作られています。これからの外部評価に対しても真摯に受け止めながら、改善への取り組みが期待されます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はこれまで不定期な開催で、改善の必要性が謳われていましたが漸く2ヵ月毎の開催の兆しが見えてきました。家族の出席も多くなり、また、内容も多岐に亘るなど進展が見られます。これからは2ヵ月毎の定期開催の定着と評価の取り組みを提示しながら、改善に向けたモニター役を担っていただき、サービスの質の向上に向けた取り組みが円滑に行なわれるよう期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームは家族の訪問頻度が極めて高く、来訪時を利用して利用者の状況報告が綿密に行なわれています。また、家族会での会話を通して意見や要望、また、苦情などが話しやすい雰囲気づくりが出来ており、ホーム運営に反映するようにしています。現在の「ご意見箱」の設置場所もホームの一部改築に伴い変更の予定で、今後大いに活用されるよう期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の散歩時にはゴミ拾いを兼ねており、町内の美化運動に貢献をしています。また、ホーム恒例の「こばやしさんち祭りバザー」に利用者で作った靴下やショールなどの編み物などが出品され、地域住民の方々に購入いただくなど、温かな交流が続いています。町内のボランティアも町内行事の送迎などに支援をいただくなど、地域の一員としての暮らしが継続されています。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地元町内会の理解をいただきながら、地域の中でその人らしい生活を支える運営方針が作られています。運営者は更に判りやすい独自の理念が必要と考え現在検討されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行なわれる定例ミーティングでは、地域に暮らす利用者を支える理念を念頭に話し合いが行なわれており、職員が共有できるよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年7月下旬に行なわれるホーム恒例の行事「こばやしさんち祭りバザー」は、利用者と地域住民の触れ合いの場として定着しています。利用者が日頃作成した編み物など、作品が住民の目に触れる事ができ、購入いただくなど暖かい交流が続いています。また、町内行事にはボランティアの協力をいただきながら、地域の一員として参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成では、職員全員に予め評価項目を配布し、日頃のサービスについての振り返りを行なう好機として捉えるなど、評価の意義と活用が具体的に活かされています。今後は、自己評価及び外部評価での取り組みを運営推進会議に提示しながら、具体的な取り組みを進めることが計画されています。		

旭川市 グループホーム こばやしさんち

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の取り組み課題でもありました定期的な開催は、運営者及び管理者の努力により2ヵ月毎の開催に向けた改善が視えます。また、家族の理解をいただきながら、多くの出席がみられるなど課題の改善が見られます。会議の内容も災害時の避難訓練を組み入れメンバーの理解を深める工夫がされており、災害に対応した取り組みの共有が図られています。これからも定期開催の定着化を期待します。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口とは、介護保険の保険者としての連携、及び生活保護に関係する事務手続きなどで若干の行き来はありますが、定期的なホームの状況報告や自己評価及び外部評価での取り組みの報告など、現場の状況等を積極的に伝えながら、共にサービスの質の向上に取り組む関係作りが十分ではありません。	○	地域密着型サービスでは、ホームと市が情報を共有しながら、より良いホーム運営に共に取り組むことが大切です。ホームの状況や自己評価及び外部評価で明らかになった課題を市の担当者に提示しながら、サービスの質の向上に向けた取り組みを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問頻度が極めて高く、来訪時の家族との会話を通して利用者の状況が報告されています。また、不定期に作られていた「たより」も毎月1回の発行に改善され家族のもとへ送られています。金銭管理も来訪時に内容を説明して家族の信頼をいただいています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時の会話の中から意見や要望などを聞くように努め、事案はミーティングで職員全員が共有しながら協議し、運営に反映するようにしています。「ご意見箱」も設置されていますが、もっと活用されるよう設置場所の変更も含めた検討が行なわれています。家族会も年2回の開催で絆を深めるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の退職など異動は見られませんが、運営者は職員のスキルアップと顔馴染みを図るため系列のデイサービスやフリーハウスとの交流は図っており、入居時から円滑なサービスの提供が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しては、ベテラン職員がプリセプターとなって指導しているほか、外部の研修には積極的に参加を促し、シフト変更をして受講機会を確保しています。また、必要な資格取得には資金の貸付援助も行なうなどレベルアップを支援しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加し、ほかの業者との交流を通してサービスの質の向上を図るよう努めています。ほかのグループホームとの相互訪問や見学会も徐々に行なわれており、ネットワーク作りも検討されています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	系列のデイサービスやフリーハウスの利用者が入居されるケースが大半で、ホームの職員や利用者とも交流があり、「本家さんに行ってくる」との親しい関係が出来上がっています。職員は急がず、ゆっくりとした雰囲気を利用者が安心して暮らせるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は支援するという一方的な立場ではなく、利用者と共に家族の立場で暮らしを継続することにしています。感謝の言葉がお互いに行き交う暮らしが営々と続けられ、喜怒哀楽を共にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、思いや意向を把握し穏やかな暮らしが出来るよう努めていますが、困難な場合は目などの表情から利用者の思いや意向を汲み取るようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の採用により、利用者がより良く暮らせる情報が的確に把握できるよう配慮されています。また、日頃から職員が接して得られた情報や意見及び家族の要望等を反映しながら、適切な計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは6ヵ月を期間として行なわれていますが、利用者の状況変化に際しては、利用者や家族、かかりつけ医や看護師の意見を交えながら、随時現状に合うよう計画の見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により対応が困難な病院受診の送迎や買物など、柔軟に支援が行なわれています。また、ホーム外の美容院、訪問美容なども利用者の要望に応じて支援されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らしを続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特殊な治療以外は、ホームの協力医療機関の医師がかかりつけ医となって適切な治療が受けられる体制が出来ています。医師の指示で定期的な検診も行なわれ、相互の情報も密に交換されるなど家族の安心と信頼を得ています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居する際には、医療連携体制の方針に沿った説明が行われて家族の同意書をいただいています。また、ターミナルケアの臨場に際しては家族と医師を交えた細部に亘る話し合いが持たれ、その都度、同意書が交わされています。昨年はターミナルケアから看取りの体験もあり、職員の協働と手厚い支援に対し、家族の大きな感謝も寄せられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮して玄関先に置かれていた面会簿は廃止しています。「おたより」への利用者の写真掲載は事前に家族の同意書をいただいています。また、脱衣場ではカーテンの設置により工夫が施されています。職員は利用者の誇りを損なわないよう、言葉かけに十分配慮しながら対応しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が思い思いの趣味に熱心に取り組んでいます。職員は利用者の生活歴など情報をしっかりと把握して、利用者の自力を引き出しながら、日々その人らしい笑顔の暮らしを支えています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者全員が顔の見える大きな食卓で、まるで昔の卓袱台を思わせる雰囲気の中で、楽しみながら食事が進められています。メニューは職員が考えて作られますが、利用者の希望も取り入れて昔懐かしい田舎料理も作られるなど、話題を提供しながらの工夫が行なわれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎週2回の入浴をゆっくりと楽しんでいきます。現在、夜間入浴の希望者がいないため実施されていません。また、リビングで寛ぎながらの足湯は好評で、テレビを見ながら楽しんでいきます。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでは、利用者ができること、出来そうなことを把握しながら、自らの力を十分発揮できる場を提供しています。利用者は家事や読書、また、編み物、ちぎり絵など、思い思いの楽しみごとで、ゆったりとした暮らしの中で張り合いを見出しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、毎日のゴミ拾いを兼ねた散歩やホーム前でのお茶会で外気浴を楽しんでいます。また、買物やホーム前のデイサービスへ遊びに出かけることも多く、閉じこもりを防ぐ配慮がされています。毎月1回の社会見学や家族会の花見や外食も楽しみにしています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の利用者はいませんが、玄関の施錠は一切行なわれず、その都度、職員が同行して散歩などで気分転換の配慮をしています。夜間は午後10時から翌朝6時までは施錠して防犯に備えています。		

旭川市 グループホーム こばやしさんち

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の評価で課題となっていた災害対策では、地域住民の理解と協力をいただきながら、消火の実地訓練などを一緒に行ない、反省すべき点の掘り起こしなど取り組みの効果が顕著に表れています。しかし、人手の少ない夜間を想定した避難訓練と災害に備えた備品等の準備が十分ではありません。	○	職員の少ない夜間での災害は最も危険な状況が想定されます。運営推進会議でも協議されていますが、夜間を想定した避難訓練への取り組みと非常時に備えた物品の準備の取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量は介護記録で詳細に把握、記載されています。利用者の趣向への対応や症状により低カロリー、刻み食も配慮されていますが、出来るだけ食材の良さを活かす工夫により、バランスの良い食事が提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の戸は格子戸でづくりで、一般家庭の玄関のような雰囲気や家族や利用者の友人が頻繁に出入りしています。居間の大きな窓からは豊富な陽光がリビングに注いでいます。今年の8月には一部改築も予定されており、益々住み良いホーム作りに期待がもてます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とも、利用者の使い慣れた家具や調度品が整然とおかれ、居心地の良い安心の空間となっています。		

※ は、重点項目。